

第29回鈴鹿市文芸賞の受賞作品が決まりました

◆一般の部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	小説・評論等	渡邊 悠	流れ星古書店
	エッセイ	平 英男	はなをくんくん
	アフォリズム	中山 美保	転職を繰り返していても、なあなあと生き続けていれば、還暦を過ぎてから天職が見つかることもある。
	詩	館 絢香	秋の日に
	短歌	渡部 明美	ペイズリー柄
	俳句	伊藤 清美	春零る
	川柳	松長 一步	幸せのかけら
優秀賞	小説・評論等	江崎 淑子	淡沢栄一と文次郎
	エッセイ	森谷 佳子	『野分』と漱石
	アフォリズム	石川 裕子	親ばなれ、子ばなれ、とっくに卒業。この孤独？いえいえ自由を満喫しています。
	詩	くさもと なぎ	行方
	短歌	安富 節子	約束せず
	俳句	仲見 たかし	遠花火
	川柳	奥田 悦生	生きる・明日へ

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	小説・評論等	野山之本樹	血統書
	小説・評論等	小坂 彩夏	定年ライフ
	エッセイ	種口 祥巳	絵本
	アフォリズム	小川 はつこ	死んでも、心に生き続ける人がいる。生きているのに、死んでいる人もいる。
	詩	澤田 悟	帰郷
	短歌	城 本山	窓の自画像
	短歌	種口 哲司	秋立ちぬ
	俳句	余川 彬夫	雲の峰
	俳句	稲垣 敏子	幸福感
	川柳	玉木 りょうこ	現在の私
川柳	戴 けいこ	笑顔	

◆ジュニアの部

(敬称略、同賞内順不同)

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
最優秀賞	作文・童話等	笠井 亜希子	母と私のソーシャルディスタンス
	詩	渡部 桃子	うみのいみ
	短歌	中村 亮介	ばあちゃんとぶつだんみがきピッカピカのじいちゃんお祭りなさい
	俳句・川柳	田中 愛唯	夜の空里の輝き冬近し
優秀賞	作文・童話等	脇本 和幸	とある厨二の人間賛歌～ダイヤモンドは砕けない～
	詩	若山 恵菜	楽しみにしていた夏休み
	短歌	山本 麻央	エイの群れかさなりすぎてミルフィーユ偶然見れた一度の奇跡
	俳句・川柳	丹羽 泰誠	こと別はねおうたが上手かしゆみたい
奨励賞	作文・童話等	河内 理桜	二つぷの雨
	詩	佐藤 瑛斗	コロナニモマケズ
	短歌	加藤 昂波	てがはえたおたまじゃくしのちいさいよえさをあげたらすぐにたべたよ
	短歌	後藤 凜人	かぶとむつかまえましたやまのなかだいじにしたがしんでしまった
	短歌	植村 悠真	わらいたいマスクはずしてともだちといつまでつづくコロナウイルス
	短歌	谷口 翼	虫とりでかぶとたいりようゲットした友に分けたよだいじにしてね
	短歌	川村 捷人	楽しいねいっばいつれたよざりががまっかな体はひやけのようだ
	短歌	佐々木 煌真	コロナきんにん者のようにかくれてるひっさつわざでだれたかおして
	短歌	中川 ローマ	クワガタが運ばたにいつかまえた家でかっただよ今もかってる
	短歌	岡本 和真	かめ山のせきすいけいの夜の空りゆうせいぐんがとおっていった
	短歌	瀬古 唯七	今年夏コロナですくない夏休みでもそのわりにはしめくたい多い
	短歌	小川 瑚乃華	竹馬を初めて乗ってよると生まれたてのこじかのようにだ
短歌	辻 悠樹	宿題をつつくぼうしにせかされるそんなに急くなまだだとち	

賞	ジャンル	氏名	作品名/作品
奨励賞	短歌	岡本 真弥	カーテンがふわっとズレて日が当たる朝の五時半目覚める私
	短歌	豊田 蘭	書きこみでうそもわざもまるのみにたしか情報知らなくせに
	短歌	鈴木 俊介	風景をいちいち頭に思い浮かべたいもの、二、三倍かかる読書
	短歌	山崎 驚	スペイン村皆が乗り物のつた時乗らない僕はカメラかまえる
	俳句・川柳	熊沢 仁	妹と石やしき寺でカゲとり
	俳句・川柳	鈴木 里菜	弟がやったことだがおこられる
	俳句・川柳	近藤 未来	コロナさんあんたが自しゆくしてくれよ
	俳句・川柳	新居 愛由奈	きれいだな雲が流れる大空は
	俳句・川柳	佐野 心彩	いやな音目覚まし時計鳴っている
	俳句・川柳	中田 一美	誕生日テスト期間で台無しだ
	俳句・川柳	伊藤 柚葵	本を読むふと気がつけば主人公
	俳句・川柳	伊藤 耀介	雪遊び遊びたいけどつもらない
	俳句・川柳	堀内 勇志	くりさんはいがのうわぎでポッカポカ
	俳句・川柳	藤井 娃光	帰ったら笑ってほしいなお母さん
	俳句・川柳	小川 愛奏	はくぶつかんのぞうさんのほねおつきいね
	俳句・川柳	金森 梨心	買い物で寄るな触るな2メートル